

CITIES ON VOLCANOES 5 CONFERENCE

火山都市国際会議 島原大会



大会のご案内



www.citiesonvolcanoes5.com



主 催：島原市 日本火山学会

共 催：国土交通省九州地方整備局 長崎県

雲仙市 南島原市 IAVCEI (国際火山学地球内部化学協会)

九州大学大学院理学研究院 東京大学地震研究所

雲仙岳災害記念財団

後 援：

内閣府、気象庁、産業技術総合研究所、防災科学技術研究所、土木研究所、環境防災総合政策研究機構、防災情報機構、日本災害情報学会、日本自然災害学会、土木学会、砂防学会、日本測地学会、物理探査学会、日本地質学会、日本地震学会、日本情報地質学会、日本地学教育学会、東京地学協会、日本地理学会、日本第四紀学会、日本地熱学会、日本岩石鉱物鉱床学会、資源地質学会、日本地球化学会、日本リモートセンシング学会、日本応用地質学会、NHK 長崎放送局、NBC 長崎放送、KTN テレビ長崎、NIB 長崎国際テレビ、NCC 長崎文化放送、長崎新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、朝日新聞社、西日本新聞社、共同通信社、時事通信社、島原新聞社、ケーブルテレビジョン島原、ひまわりテレビ、しまばら通信社

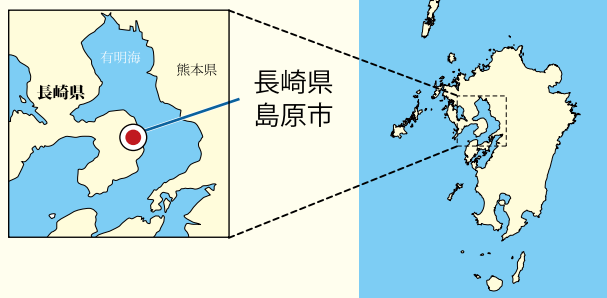
火山都市国際会議 島原大会

CITIES ON VOLCANOES 5 CONFERENCE

2007.11.19 ~ 23

2007 **11** NOV

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	



※このパンフレットは平成 19 年 3 月時点の内容に基づいて作成してあります



ごあいさつ

このたび、火山都市国際会議がアジアで初めて島原市で開催できることを大変光栄に思います。

本市の西にそびえる普賢岳は1990年に噴火を始め、翌年の6月3日には大火砕流により43名の尊い生命が失われました。平成7年には噴火活動はほぼ終息しましたが、災害における応急、復旧、復興、振興の各過程は、行政、火山学者、そして住民による着実な相互協力があって進められました。今回のこの国際会議の開催を機に、本市が行った対応の、ひいては日本の火山災害の経験、対応のノウハウを世界に向けて発信できることにこの上ない喜びを感じています。

島原市は東に海、西に平成新山・雲仙岳を望む風光明媚なまちです。市のシンボル島原城、武家屋敷や清らかな湧水、温泉をはじめ、さまざまな歴史や自然の恵みにあふれています。国内外の皆様がこの島原において大いに議論をつくされることを願うとともに、皆様のお越しを心からお待ち申し上げます。

島原市長 吉岡 庭二郎

(火山都市国際会議島原大会 名誉顧問)



ここ数十年の日本における火山の活動は比較的静穏なものでした。それでも、伊豆大島、普賢岳、有珠山、三宅島の噴火では少なからぬ犠牲者や住民の長期避難が続きました。火山災害の大きさと噴火の規模とは必ずしも1対1ではありませんが、近い将来の日本で起こることが避けられない規模の大きな噴火においては、火山周辺だけでなく火山から離れた場所にある生活圈や社会基盤構造にも大きな影響が生じると想定されます。多くの活火山を抱える日本ではどこにいても火山との共生を意識することが不可欠です。これまでに多くの国々でさまざまな火山災害を幾度となく経験し、その都度人々はそこから立ち上がってきました。本会議では、島原という舞台で、世界の火山噴火やその災害の経験や研究成果を交換し合い、研究的な側面だけでなく、広い視野から世界中の火山災害軽減のための議論ができるように盛り上げたいと思います。

東京大学地震研究所

教授 中田 節也

(火山都市国際会議実行委員会 委員長)



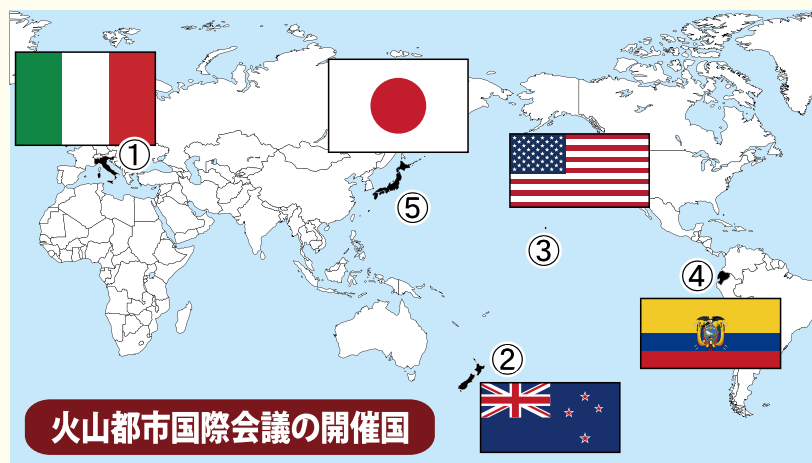
火山都市国際会議 Cities on Volcanoes conference とは？

火山都市国際会議 (Cities on Volcanoes conference シティーズ・オン・ボルケーノーズ・カンファレンス (COV)) は、火山学の国際学術組織である IAVCEI (イアブセイ・国際火山学地球内部化学協会) の活動としてほぼ2年おきに開催される国際会議で、火山災害の軽減を目的としています。そのためこの会議では通常の学術会議と異なり、火山学・工学・医学・社会科学などの分野の研究者のほかに行政関係者や防災関係者などがつどい、火山学の研究成果のみならず、火山噴火が周辺の都市や住民に与える影響、危機管理、防災活動、都市計画などについて、それぞれの経験や意見を交換しています。

火山都市国際会議はこれまでに4回開催されています。第1回がイタリアのローマ (1998年)、第2回がニュージーランドのオークランド (2001年)、第3回が米国ハワイのヒロ (2003年)、第4回がエクアドルのキト (2006年) で行われました。そして第4回キト大会において、次回の会議 (第5回大会) が2007年11月に島原市で開催されることが決定しました。第5回島原大会は、アジアで初めての火山都市国際会議となります。

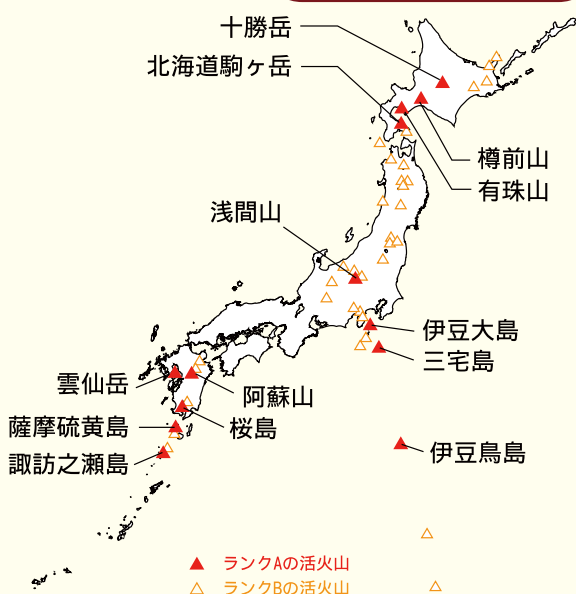
島原市がこの会議の開催地に選ばれたのは、先の雲仙普賢岳噴火において甚大な被害を被ったにもかかわらず、住民と行政が一体となった復興運動の推進や無人化工法による防災土木工事などにより、火山災害を克服し復興を成し遂げたことが世界の火山関係者から高く評価されたためです。

このため、第5回島原大会では、研究者や行政・防災関係者だけでなく、噴火の被災者や復興に関わった住民の方々にも参加していただき、火山噴火の教訓や復興の過程を世界に発信したいと考えています。また、火山災害の軽減には報道機関の役割も重要であることから、報道関係者にも参加していただき、住民との討論なども予定しています。第5回島原大会は、住民および報道参加型の会議として、これまでの火山都市国際会議の中でも特色のある大会となります。



火山都市国際会議の開催国

日本の火山マップ



日本には100を超える活火山があり、毎年複数の火山が噴火しています。近年では雲仙普賢岳のほかに有珠山や三宅島の噴火災害を経験しました。また、そのほかの火山地域においても防災対策や啓発活動などの取り組みが積極的に行われています。

わが国のこのような火山防災への取り組みと経験を世界の火山関係者に紹介し、火山防災について意見交換することは、日本の重要な国際貢献であるだけでなく、「火山と共生する都市(まち)づくり」をめざす私達にとっても大変有益であると思われます。火山を抱える多くの自治体や防災機関の方々、火山地域の住民の方々の積極的な参加を期待しています。

九州大学大学院理学研究院
附属地震火山観測研究センター
所長 清水 洋

(火山都市国際会議島原大会 実行委員会 副委員長)



火山都市国際会議島原大会の会場、日程について

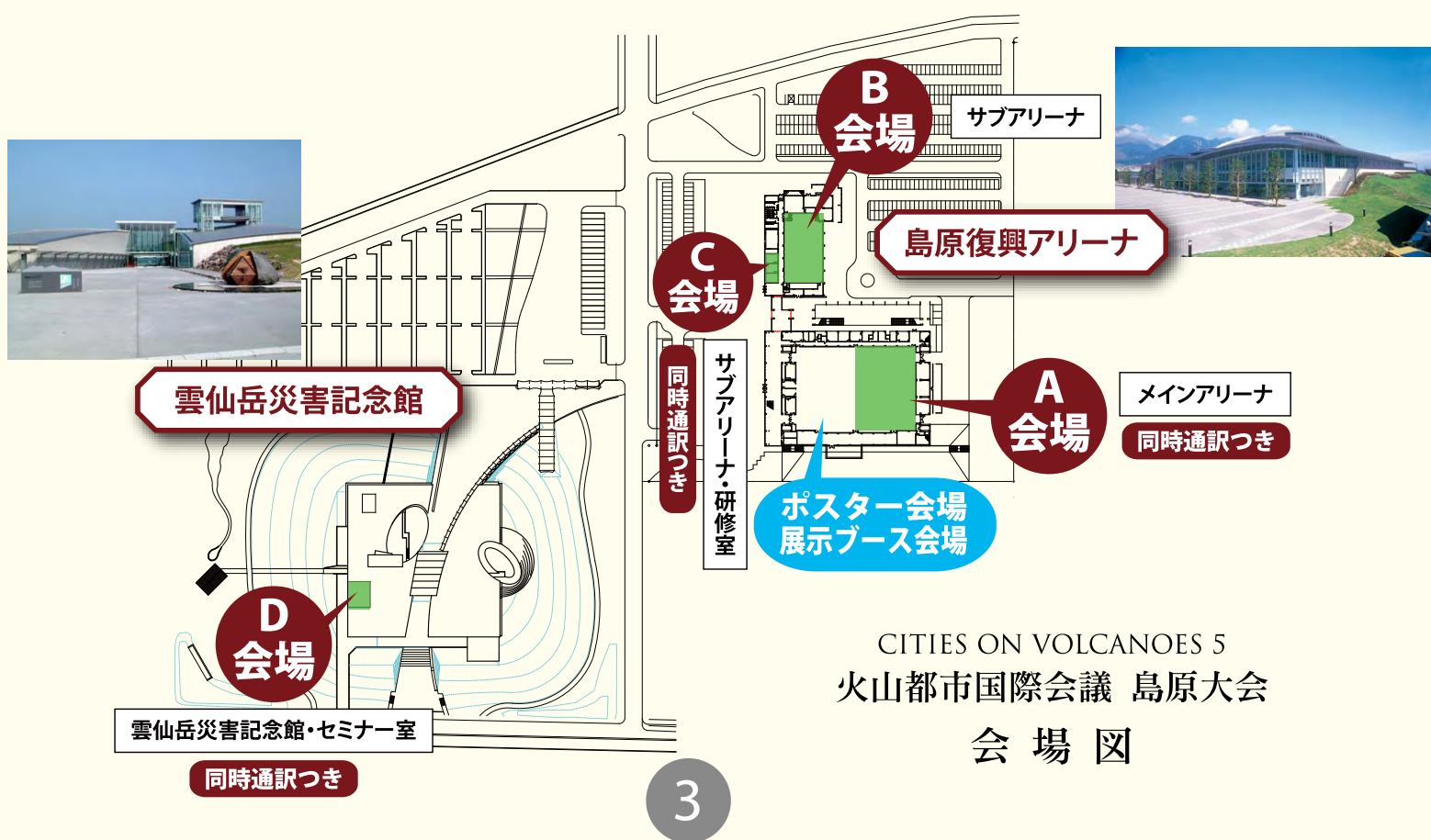
火山都市国際会議島原大会は、島原復興アリーナおよび雲仙岳災害記念館（がまだすドーム）を主会場として開催されます。日程は右の表のようになっています。

会場は、下の図のようにA～Dの4会場およびポスター・展示ブース会場に分かれています。A会場では、多くの傍聴の方が参加し、主に住民、行政が主体となる会議『フォーラム』（5ページ参照）が開催されます。B、C、D会場では研究者が中心となる学術プログラム（7～8ページ参照）の口頭発表が予定されています。口頭発表は、パソコンと映写装置（プロジェクタ）を使い、資料をスクリーンに映し出しながら行われます。B～D会場の公用語は英語ですが、B会場をのぞくすべての会場では日英の同時通訳が行われます。英語が苦手な方でもプログラムに参加いただくことができ、海外の研究者のみなさんも一般の方々と交流を深めることができます。

A会場の隣のポスター会場では、専門家のみなさんが研究成果をまとめたポスターを掲示する「ポスター発表」が行われます。掲示されるポスターは数百枚にもおよび、会期中に1回入れ替えを行います。毎日一回はポスター発表者から直接説明を聞いたり、質問をすることができる時間が設定されています。火山に関するさまざまな写真、図表類が掲示され、見るだけでも楽しいものとなるでしょう。また、火山に関連する行政機関、企業、大学、研究機関による展示会も予定されています。さまざまな防災の取り組みや研究成果、製品などが展示がされ、書籍等の販売も行われます。

【会議への参加について】

- ① 個人参加登録（学術プログラムでの発表や21日の巡検参加が可能。専門家向け。登録料がかかります）
火山都市国際会議島原大会公式ホームページ <http://www.citiesonvolcanoes5.com> 上で受付中です。
- ② 一般登録（一般の方向きで、講演の聴講や意見交換ができる）
9月頃発行予定の『火山都市国際会議島原大会ガイドブック』（仮称）でご案内する予定です。



火山都市国際会議 島原大会 日程表 (平成19年11月19日～23日)

この日程表におけるフォーラム・学術プログラムの順番は仮置きのもので、今後、申込状況やフォーラムの内容等に基づき変更されることがあります。

会場 日程		会場外	A 会 場 メインアリーナ 19～23日 同時通訳つき	B 会 場 サブアリーナ	C 会 場 サブアリーナ研修室 19～23日 同時通訳つき	D 会 場 雲仙岳災害記念館 19～23日 同時通訳つき	
16-17 日				日本災害情報学会	日本災害情報学会		
18 日 (日) 前日	日中	登録受付		日本火山学会秋季大会	日本火山学会秋季大会	日本火山学会秋季大会	
	夕方		アイスブレイカー (ウェルカムパーティー)				
19 日 (月) 第 1 日	午前		開会式・記念講演 ・基調講演				
			フォーラム a	1-1 最近の火山研究の 進歩	2-1a 自然災害への対応	3-1 火山のリスクを軽減 するための連携	
	午後		基 調 講 演				
			フォーラム b	1-1 最近の火山研究の 進歩	2-1a 自然災害への対応	3-1 火山のリスクを軽減 するための連携	
	夕方		ポスター発表者の説明 (ポスター会場)				
夜間	各ワーク ショップ						
20 日 (火) 第 2 日	午前		基 調 講 演				
			フォーラム c	1-1 最近の火山研究の 進歩	2-1b 長期的な火山災害 とリスクの評価	3-2 教育と広報活動	
	午後		基 調 講 演				
			フォーラム d	1-1 最近の火山研究の 進歩	2-2 火山活動の社会基 盤への影響と効果 的な「減災」対策	3-2 教育と広報活動	
	夕方		ポスター発表者の説明 (ポスター会場)				
夜間	各ワーク ショップ						
21 日 (水) 第 3 日	午前	巡検 (仁田峠ー妙見岳ー南千本木ー垂木台地ー大野木場小学校ー砂防みらい館ー水無川 土石流被災地ー小中学校訪問) ※『巡検』とは、火山の状況や地層のようす、防災施設などを見学する野外視察のことです。					
	午後						
	夜間	島 原 城 パ ー テ ィ ー					
22 日 (木) 第 4 日	午前		基 調 講 演				
			1-3 活火山との共存に よる健康災害	1-2 火山噴火予知と 火山警報	2-2 火山活動の社会基 盤への影響と効果 的な「減災」対策	3-3 地域社会と火山活動	
	午後		基 調 講 演				
			フォーラム e	1-2 火山噴火予知と 火山警報	2-2 火山活動の社会基 盤への影響と効果 的な「減災」対策	3-3 地域社会と火山活動	
	夕方		ポスター発表者の説明 (ポスター会場)				
夜間	各ワーク ショップ						
23 日 (金) 第 5 日	午前		基 調 講 演				
			フォーラム f	1-2 火山噴火予知と 火山警報	2-3 火山のリスクを軽減 する長期的土地利用	1-3 活火山との共存に よる健康災害	
			フォーラム g				
	午後		ポスター発表者の説明 (ポスター会場)				
			フォーラム h				
			フォーラム i				
	夕方		閉 会 式				
夜間	フェアウェル (お別れ) パーティー：九十九ホテル						

フォーラムに参加しませんか？（一般の方も自由に参加できます）



火山都市国際会議島原大会では、学術プログラムと並行して、火山周辺地域に居住する住民のみなさんや、科学者、行政、報道関係者がつどい、公開討論を行う『フォーラム』を開催します。災害教訓の伝承、防災対策、減災の取組のような話題から、めったに見られないビデオの映写会、子どもたちも楽しめるものまでさまざまな企画が予定されています。一般の方も自由に参加いただくことができます。（開催の順番等は未定です）

1 火山市民ネットフォーラム

雲仙・普賢岳噴火災害をはじめ、有珠山、三宅島など国内で発生した噴火災害の際の避難生活や生活再建などについて、当時の被災者を中心に住民の視点から語り合い、教訓を後世にどう伝えていくかを話し合います。

2 火山と砂防に関するフォーラム

急峻な地形の多い日本では、それぞれに特色のある火山地域でその地に最も適した砂防・防災対策が行われています。このフォーラムでは、国土交通省が中心となり、各地の砂防事業や先端技術を紹介しつつ、未来に向けた取り組みについて考えていきます。

3 災害の伝承に関するフォーラム

内閣府中央防災会議と、雲仙・普賢岳噴火災害時に重要な役割を果たした長崎県によるフォーラムです。「災害教訓の継承に関する専門調査会」における取り組みを中心に、さまざまな災害の教訓をどのように防災意識の向上に役立てていくかを考えます。

4 住民とマスメディアによるフォーラム

災害時に住民や被災者にとって本当に役立つ情報とは何か。このフォーラムでは雲仙・普賢岳噴火災害当時の報道関係者と住民が討論を行い、災害時・平常時のマスメディアの果たす役割や、災害時のあるべき報道姿勢などについて意見を交わします。

5 被災体験者と科学者との交流会（夜間開催）

嵩（かさ）上げ事業により新たな街として再生した安中三角地帯。その一角の「再生館」において、被災体験者が災害当時の火砕流・土石流の恐怖や復興への歩みを語り、参加者の皆さんと意見交換をする夜話集会です。特に研究者の皆様のご参加をお待ちしています。

6 火山防災ビデオの映写会

雲仙普賢岳で亡くなったクラフト夫妻の遺したビデオをはじめ、国内外で作成されている火山防災のためのビデオや、火山映像などの映写を行います。

7 子ども火山フォーラム

火山のふもとに住む子供たちが、九州火山ネットワークのみなさんとともに火山や歴史、環境について学び、調べた成果を発表します。

8 キッチン火山の実験と解説



身近にある食材や器材を使った実験を通して、火山噴火や自然現象について学んでみましょう。『キッチン火山学』は、子供たちにも興味の

持てる楽しいフォーラムです。楽しく学び、防災の意識を高め、火山と共生していくための知恵を育みます。

9 火山子どもQ&A

火山についての疑問などを、子どもたちが世界の火山学者に聞いて解決しようというフォーラムです。日頃感じている疑問を世界でいちばん詳しい人たちに聞いてみましょう。

10 災害ボランティアフォーラム

日本および世界の災害ボランティアが、それぞれの体験や活動から得られた教訓を共有し、災害ボランティアのあるべき姿や方向性などについて提言するフォーラムです。

市民おもてなしプログラムについて

火山都市国際会議島原大会は、世界中から多くの皆さんが島原を訪れるめったにない機会となります。皆さんのできることで、大会に参加してみませんか？ 詳細については市広報誌やチラシ、ホームページなどでご案内しますので、皆様のご参加・ご協力をお願いします。

1 街なか交流イベント《受付期間：4月～6月末ごろ予定》

大会期間中、多くの国内外の参加者の皆さん方が市内を散策されます。街角や商店街、中央公園、公民館等において、市民や団体の皆さんの企画、運営による様々な市民交流イベント等を開催することによって国際・文化交流とともに、心温まるおもてなしが可能となります。そのような街なか交流イベントや大会行事、式典等での地元アトラクション(出し物)に関するご提案等をお寄せください。

2 市民おもてなしボランティア《募集期間：5月～10月末ごろ予定》

実行委員会では、大会準備や観光案内、会場周辺等の環境美化などについて、市民の皆様による各種ボランティアの募集を予定しています。現在、市民向けのもてなし英会話講座等で活動していただいている外国語ボランティアの活動をはじめ、次のようなボランティア活動を計画しています。

- | | |
|-----------------|------------------------|
| ① 災害語り部ボランティア | 雲仙普賢岳噴火災害の教訓等に関する語り部活動 |
| ② 観光ガイドボランティア | 島原市内等の観光ポイントに関するガイド活動 |
| ③ 外国語ボランティア | やさしいもてなし英会話講座等の活動 |
| ④ 環境ボランティア | 市内一円の環境美化等に関する活動 |
| ⑤ 街なか交流ボランティア | 各種市民おもてなし行事のサポート |
| ⑥ 会場ボランティア | 大会期間中の会場案内、整理等の活動 |
| ⑦ その他、必要なボランティア | |



プレ・イベント（バス視察）
や、もてなし英会話講座
で活躍するボランティア



3 おもてなし協力店《募集期間：4月～7月末ごろ予定》

火山都市国際会議島原大会を支援するための寄付金の募金活動や、大会ガイドブック等への広告掲載を目的とした企業協賛広告の募集を行います。また、外国人の方でも気軽に利用いただけるお店をまとめた「火山都市国際会議島原大会・おもてなしショップまっぷ」(仮称)の作成なども計画しており、そのような形で大会を支援していただけるお店を「おもてなし協力店」として登録し、協力店ステッカーなどをお配りする予定です。

大会期間中、会場内に『展示ブース会場』(出展有料)が設けられます(会場図は3ページをご覧ください)。地元企業等でブース会場での販売を希望される方は、実行委員会事務局 ☎ 0957-65-5540 までお問い合わせください。希望が多い場合には、屋外での地元物産展の開催も検討します。



シンポジウム1：火山を知る

1-1 最近の火山研究の進歩

人々が火山に近い地域にまで住むようになり、また世界の空の交通がますます過密化するにつれて、火山噴火は私たちの生活と社会基盤（インフラ）に重大な脅威を与えるようになってきています。この脅威を抑えるためには、噴火現象を正確でより定量的に把握する必要があります。この分科会では、過去の火山噴火やその噴火に至る過程のメカニズムを明らかにし、様々な規模の噴火現象を確認・評価するのに役立つ研究成果を取り上げます。

1-2 火山噴火予知と火山警報

火山噴火の予知や災害抑制の基礎となっているのは、観測調査による火山活動の監視です。噴火予測の分野では、地球物理学的、化学的、岩石学および地質学的な研究の進歩により、どのようなシナリオで噴火が起こるのかが次第にわかるようになってきました。また、噴火検知と火山警報の発信においては、リモートセンシング技術をはじめ、他の地球物理学的・化学的手法も有効です。この分科会では最新の観測技術、特にリアルタイム観測やその解析手法に焦点をあてていきます。

1-3 活火山との共存による健康災害

火山都市国際会議は、「火山と住民の共存」をテーマとする会議であり、「火山地域における健康災害」という比較的新しい研究分野を議論できるたいへん重要な機会です。この分科会では、火山活動による身体や精神への直接的な影響や、噴火から生き延びるためにどうするか議論に加え、火山ガスによる大気・水質汚染、地球化学、医療、また人間だけではなく動物の健康などの問題も幅広く取り上げます。

火山都市国際会議で企画する学術プログラムは、大きく3つの分野からなります。シンポジウム1（火山を知る）は火山噴火現象、その予知や情報、災害などに関する研究の最新の成果を議論するもので、様々な分野の科学者が参加します。シンポジウム2（火山と都市）は噴火時の危機管理、火山災害が生活や社会基盤に与える影響評価、災害軽減のための対策、土地利用計画などを議論するもので、科学者に加えて、防災、行政、報道などの関係者が参加します。シンポジウム3（火山とと



シンポジウム2：火山と都市

2-1a 自然災害へどう対処するか：噴火の歴史と教訓から学ぶ

火山によるリスクの軽減や噴火災害の対応にまつわる問題、たとえば緊急時の通報、情報伝達、避難、住民への教育などの問題は、全ての大規模な自然災害に共通しています。この分科会では、大規模自然災害を研究する科学者や、自治体などの防災関係者、報道機関が集まり、過去の実例や類似の災害事例を検討して、火山噴火の予知情報にどう備えるのか、あるいは実際に火山が噴火した時にどのように対応するのかについて議論します。

- ・火山噴火警戒レベルの設定
- ・住民に対する警報システムの構築
- ・危機対応のための諸機関の関係や仕組みについて
- ・警報を伝達する報道機関の役割

2-1b 長期的な火山災害とリスクの評価

私たちは、頻繁に繰り返し発生する中小規模の火山噴火現象に目を奪われがちです。しかし、発生頻度が非常に低くてもひとたび発生すれば、国内はもとより全球的に大きな影響をおよぼすような破滅的的巨大噴火の痕跡も存在します。そのため、数百年から数十万年に一度しか起きないような噴火現象にも注目しなければなりません。また、新たな火山が突然誕生した例もあります。このような地域にもし原子力発電所など重要施設があればさらに危険性は高まります。この分科会では、巨大噴火の発生と新たな火山の出現について、将来の火山活動お

もに生きる)では火山災害の軽減を計るために重要な教育・広報活動、種々の分野間の連携、過去の災害・復興体験の伝承などを議論するもので、住民も含めた様々な分野の人々が参加します。

発表は、B会場～D会場で行われるスクリーンを使った口頭発表と、ポスターによる発表が予定されています。B会場(シンポジウム1)およびポスター発表を除き、同時通訳が用意されます。発表には個人参加登録(3ページ参照)が必要です。

よび災害、リスクを科学的にどうとらえるかについて考えていきます。

2-2 火山活動の基幹施設への影響と効果的な「減災」対策

火山活動は、建物、電力、水、交通、情報通信など、都市や地域社会におけるライフライン(生命線)に大きな影響を与えます。このような社会基盤施設への危険性を減らすための「減災」の方策には、ハザードマップの作成、危機管理、砂防対策、災害軽減や大規模避難計画の作成、対策の費用対効果分析など様々な手法が挙げられます。この分科会では、世界中の政府機関、公共団体、科学者、技術者、教育者などのみなさんが持つ「減災」の知恵・教訓を共有することを目標にしています。

2-3 火山のリスクを軽減する長期的土地利用

火山噴火のリスクを効果的に減らすための方策として、土地利用計画の活用をあげることができます。雲仙・普賢岳災害における安中三角地帯の嵩上げ事業は、世界に誇れる土地利用の例と言えます。この分科会では、1)災害に柔軟に対応でき、かつ持続可能な地域社会を作り上げる際、土地利用計画がどのように役立つかを紹介し、2)火山災害にかかる土地利用計画を、異なる法律を持つ国の間に設定するには何が必要かを考え、3)火山災害に対して効果的な土地利用の例にはどのようなものがあるかを世界中の関係者と議論していきます。

3-1 火山災害のリスク軽減に向けての科学者、行政、報道、住民の連携

火山災害の軽減には科学者、行政、報道機関、住民の連携が不可欠です。また地域コミュニティ、ボランティアの協調と相互支援も重要です。雲仙・普賢岳噴火災害では、これらの連携不足やコミュニケーション不足により44名の犠牲者が出てしまいました。しかし、2000年の北海道・有珠山噴火では、雲仙岳災害での反省のもとに噴火の5年前から進められてきた四者間の連携が強力に機能し、1人の死者も出ませんでした。

この分科会では、世界の火山災害を軽減するために必要な連携のほか、最近盛んになっているインターネット上での火山情報の公開・流通の役割についても議論します。

3-2 教育と広報活動：火山に対する地域社会の自覚を高めるには

観光需要の増大によって、世界の火山地域に多くの人が訪れ、また火山博物館などの教育・広報施設が多数建設されるようになりました。この流れは、火山学者や行政にとってはより効果的な火山災害対策への理解と普及をもたらすものであり、同時に難しい課題へのチャレンジでもあります。

この分科会では、教育や広報活動を通して、情報伝達や火山災害のリスク認識を高めるためにはどうしたらよいかを考えます。

3-3 地域社会と火山活動：考古学、伝承そして復興

地域社会が過去の火山噴火にどうやって適応したか、あるいはそこからどう復興したかを議論することは、世界的にはこれまでほとんどありませんでした。

火山にまつわる言い伝えや古文書は、黙示録的なものから儀式的延長上のものまで様々です。それらの言い伝えは地域社会の復興を伝えるものなのか、火山の影響について信頼できる記録なのか、それとも火山災害の軽減に本当に役立つものなのか検証することは大切です。島原でも約200年前の普賢岳噴火や眉山崩壊の古文書が数多く残されていますが、それらを現代の火山噴火危機の際にどのように生かせばよいでしょうか。

この分科会では、世界の噴火災害からの復興、考古学的証拠からみた噴火と人間とのかかわり、社会科学や個々の心理学に関する研究も発表されます。

式典、社交行事について

大会期間中、開会式や閉会式などの大会式典行事のほか、島原の歴史や文化を堪能してもらう島原城パーティーなどの社交行事が計画されています。それぞれの催しで地域の各種団体等の皆さんから多彩なアトラクションなどを披露していただき、遠来のお客様を温かくお迎えしたいと思います。

1 アイスブレイカー（ウェルカムパーティー） 11月18日（日） 夕方

大会の公式日程は、大会前日（18日）夕方からの、研究者等の個人参加登録者が参加する『アイスブレイカー』から始まります。『アイス』は『氷』、『ブレイカー』は『壊すもの』という意味で、会議前の固く冷たい雰囲気をこわして、参加者同士がうち解けあおうとのねらいで開催されるものです。ウェルカム（歓迎）パーティーとも呼ばれます。アイスブレイカーの会場は島原復興アリーナを予定しており、地元アトラクションを交えながらの会食は、大変賑やかな交流の場となります。



アイスブレイカーでは島原子ども狂言などのおもてなしを予定しています

2 開会式 11月19日（月） 午前

第4回エクアドル大会
での開会式



大会初日（19日）の午前中は開会式です。開会式では主催者あいさつ、来賓あいさつの後、雲仙・普賢岳噴火災害に関する特別講演や火山都市国際会議島原大会全体に関わる基調講演などが予定されています。開会式が終わるとすぐに、国内外からの参加者による口頭発表やポスター発表などの学術プログラムや住民フォーラムがスタートします。

3 島原城パーティー 11月21日（水） 夕方

中日である21日には、昼間、大会参加者が平成新山周辺を1日かけてバスで巡るバス巡検が予定されていますが、その夜は、島原城や島原文化会館、森岳公民館で市主催のパーティーを予定しています。島原城というたたずまいの中で、島原の歴史と文化、風情を十分に堪能してもらいます。天守閣などの観覧やお茶会、研究者等の個人参加登録者を対象とした郷土料理での夕食、市民も参加しての武道や踊りの披露、音楽鑑賞などを予定しています。



島原城パーティーではお茶会などのおもてなしを予定しています

4 閉会式 11月23日（金・勤労感謝の日） 夕方

最終日（23日）は、大会プログラムに基づき午後まで学術発表や住民フォーラムが続いた後、夕方からは島原復興アリーナで閉会式が行われます。閉会式では、今回の島原大会に因んだ仮称「平成新山アピール」の宣言文を採択し、次回開催地の発表も行われます。

5 フェアウェル（お別れ）パーティー 11月23日（金） 夜

閉会式の夜には、島原市内のホテルで「フェアウェル（お別れ）パーティー」が地元アトラクションなどを交えて和やかに開催され、国際色豊かな、5日間の島原大会の幕が閉じます。

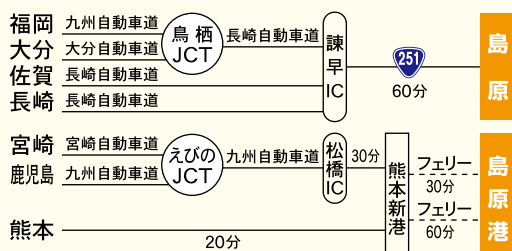
■ 用語集

- シンポジウム …… 本大会では、**研究発表会**の意味で使っています。火山都市国際会議島原大会の学術プログラムでは、大きく3つのテーマに分かれた「シンポジウム」があります。
- 基調講演 …… **会議の方向性を示す基本的な講演のことを言います。**この講演を聴いたあと、それぞれの会議室での発表が始まります。
- ワークショップ …… 定義はありませんが、**より深く掘り下げて専門的な議論を行う会議のことを指してよく使われます。**火山都市国際会議島原大会では、大会開始前日の18日や日中の公式プログラムの終了後、市内のホテルなどで各種のワークショップが予定されています。
- リスク …… 一般的には『危険性』ととらえられていることが多いのですが、**リスクは「確実性」と、それが起こったときの「危険」をあわせ持つ概念**です。確実性が低くても地球全体に影響が及ぶような数百万年に一度の大噴火のようなものは「リスクが高い」と考えます。
- ハザードマップ …… **災害予測地図。**災害によって起こるであろう被害を予測し、その影響などを地図にまとめたものを言います。避難場所などの情報が盛り込まれたものもあります。
- 減災 …… 「自然災害は完全に抑えることはできない」という発想のもと、**災害が起きたときに被害を最小限にとどめるための取り組みのことを言います。**

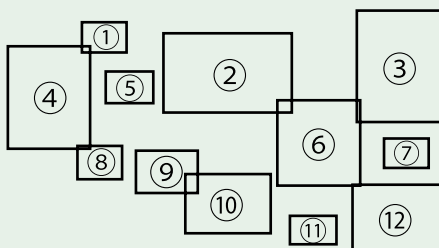
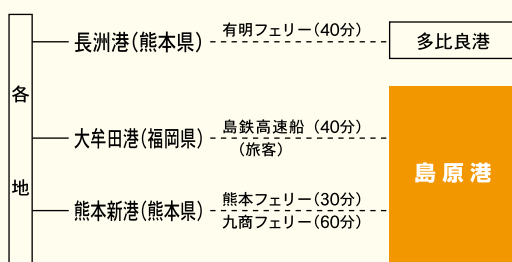
■ アクセス（島原への交通機関）



■ 自動車



■ 船・フェリー



表紙に掲載されている写真は、個人参加登録（3ページ参照）した参加者が、大会前後の火山視察『巡検』で訪れる予定の火山です。詳しくは大会公式ホームページ <http://www.citiesonvolcanoes5.com> の『巡検』(Field Excursions)をご覧ください。

- ①北海道駒ヶ岳 ②富士山 ③三宅島 ④有珠山 ⑤九重山
⑥平成新山（雲仙岳） ⑦伊豆大島 ⑧開聞岳 ⑨阿蘇カルデラ
⑩浅間山 ⑪薩摩硫黄島 ⑫桜島

火山都市国際会議 島原大会 実行委員会

〒855-0879 長崎県島原市平成町 1-1 (雲仙岳災害記念館内)

TEL : 0957-65-5540 FAX : 0957-65-5542

大会公式ホームページ (英語版・日本語版)

<http://www.citiesonvolcanoes5.com>

電子メール

convention@citiesonvolcanoes5.com

